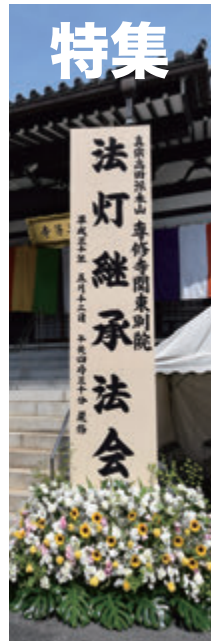


特集



関東別院法燈継承法会に際して

二〇一三年十月二十七日に本山で法主継承式を行ってから、早いもので既に四年半が経ちました。この間に世界も日本も、そして高田派でも様々な動きがありました。国際情勢は時々刻々緊迫の度合いを増して来ていますし、日本の国際的な孤立状況も際立って米ましました。このような混沌とした世相の中にありながら、高田派には画期的な出来事がありました。ご承知の通り、昨年十一月二十八日、本山専修寺の西御堂が三重県内の建造物としては初めて国宝に指定されるに至りました。これにより、高田派も専修寺も全国的な知名度が少しは増すのではないかと期待しているところです。

さて、私共高田派は御開山親鸞聖人が下野高田に専修寺を創建したことからはまる関東教団です。本山が伊勢一身田に移ってから五百年近い星霜を経た今でもそれはいささかも変わることなく、本寺専修寺は高田門徒の心のふるさととなっています。そして現代、高田派および専修寺は関東の懸念な御門徒の皆様によって支えられています。関東は高田派にとって色々な意味で生命線なのです。西御堂の御門徒の皆様がさらに自覚と誇りを持って、高田念仏を継承・伝持していただくことを心から念ずるものです。

平成三十年五月十二日

高田山専修寺第二十五世

慈祥差

5/12 関東別院法灯継承法会勤修

<http://www.takadaha-kanto.com/>

「法灯継承法会」を関東別院にて執り行えたことに厚く御礼申し上げます。



「法灯継承法会」は関東別院にとって、大切な節目となる法会です。この日を迎えるため、朝早くから多くの職員、スタッフが立ち回っておりました。

五月十二日、前日までのお天気とは違って変わっての晴天となり、透き通る空と和やかな空気に包まれた最良の日となりました。

午前中には、「永代経法会」が行われ、午後には備え「法灯継承法会」に切り替える時には、多くの方々のお力を拝借し、関東別院みな一丸となり取組みました。本堂には五色幕を飾り、山門を抜けると八尺の大きな看板に花を彩り、山門から客殿入口の間に受付を設けました。

さらに祝賀の気持ちを表して、山門脇には草履、念珠、反物、和菓子などの露店が並び、その賑わいある風景に檀家さん、来賓の方々も楽しそうにしておりました。

来賓には本寺輪番、東京・神奈川・栃木・茨城のご住職と副ご住職、さらに関東別院の役員と婦人会にお越しいただき、多くの方々にお祝いをいただきました。

法主殿、前法主殿、そして総長が下車、山門をくぐりゆつくりと御殿へ向かわれま

した。御三方が揃われて関東別院を歩む姿はこれまでになく、希少な光景を拝見したと今も感じております。

法会の開始までに、関東別院役員、婦人会の方々の御対顔がございましたが、皆さま緊張の面持ちであったことが鮮明な記憶として残っております。両門様同時に御殿で御対顔されることが初めてであり、もちろん関東別院としても初めてのことでした。

法要の始まりには、奏楽でお迎えしましたが、雅楽奏者もこの日のために練習に力をいれており、見事な調べでした。今回の雅楽奏者たちは、本年九月に国立劇場の声明公演に臨みます。こちらにも楽しみみです。やがて喚鐘が鳴り渡り、出勤者が着座。その後、表白が始まりました。

「新しき法主を頼みとし、たじろぐことなく堅固の信心に徹到して、道俗共に和して宗門の興隆を期すこと」を望まれており、御開山聖人の説かれたかたい信心をもつて隆々と宗門が和することの肝要なる願いの法灯を、法主殿とともに護るといいう大きな期待を感じ、この後はその文に相應べく精進いたしたく存じます。前法主殿

のお声に心を打たれました。これまでも報恩講で嘆徳文の御親読、御調声のお声が御堂に響いておりましたことを思い出しました。

法会においては前法主殿が左側より、そして法主殿が右側よりお出ましになり御親修されるお姿に法灯継承の重きを感じました。その後御親教を拝聴し、三十数年前私が青年会に参加していた当時、法主殿より御指導を仰ぎ、またお話しさせて頂き、時に酒席を共にさせて頂いた懐かしき時代を感じながら、ここに法灯継承の御親教を頂戴して時代の変遷と重ねたご縁が走馬灯のごとく頭をめぐるしました。法主殿の所作は勿論、教義の探求心を見習い、さらに宗門の未来図を御一緒に描けたら幸いと願っております。

最後は宗務総長の復演で「法灯継承法会」は終了を迎えました。

法会に引き続き行われた祝賀会では、法主殿・前法主殿よりお言葉を頂きました。両門様ともにお若い時代から関東とはご縁が深く、大切な地域であることをお話しされ、出席者の皆様からも改めて代々に亘るお付き合いを、ありがたく懐かしむ声も聞

かれました。

こうして、貴重なお気持ちをいただくことができ、改めて宗門の節目であり、未来へ船出する羅針盤を確認できた思いでした。その後、東京・神奈川組長・役員、婦人会の方々から、たくさんのお祝いの言葉を頂き、法主殿、前法主殿、宗務総長をお見送りし閉会となりました。ライトアップされた境内、明るく映し出された内陣、御本尊が皆様をお見送りいたしました。

このような大切な法会を、一日に二度も行うことができ、そして無事に終えたことを宗門の皆様にお伝えし、厚く御礼申し上げます。これを節目に関東別院の使命として、開教拡大するべくより精進してまいります。ご指導のほど、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。 関東別院輪番花園親弘

